

初回と2回目以上の患者の検査前における心臓カテーテル検査への不安の違いとその要因

¹那須赤十字病院、²那須赤十字病院、³明治薬科大学

佐藤 照美¹、大宮司 貴子¹、仲澤 恵¹、白石 奈緒美²、宮内 美佳³

【目的】心カテを受ける患者の初回と2回目以上の検査前の不安はどの程度であるか、また、内容に変化はあるのかを明らかにし、患者のストレス状態や不安の程度に応じた看護介入を検討するために取り組んだ。【方法】対象者は、待機的に心カテを受ける患者（CAG・スタンバイ・PCI）心カテ初回患者と2回目以上の患者。高齢者（75歳）以上で認知機能低下のある患者は除き、2種類のアンケートを使用し、1、日本語版のGHQ28（The General Health Questionnaire）精神健康調査票（以下GHQ28とする。）を用いて、身体症状、不安と不眠、社会的活動障害、うつ傾向をスクリーニングし具体的な神経症状把握、評価を行う。2、不安内容の調査で3つのテーマ、1、身体的2、精神的3、物理的に分け、8項目を作成した。【結果】心カテ初回の患者では、精神健康調査GHQ28と不安調査から、身体的症状として現れた要因として、痛みに対する不安が強い事が分かった。2回目以上の患者では、要素スケール別のC「社会的活動障害」で高い平均値を示した。【結論】看護介入では、初回の患者には身体的な痛みや、どのような痛みが不安なのかを確認し、具体的な説明を行ない、2回目以上の患者には前回の心カテの苦痛状況を確認し、感覚情報を説明していく必要があり、また、自覚症状の有無を確認し自覚症状がある場合、日常生活に支障を来していないか確認していく必要がある。